

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20

71
4209
3

安政見聞誌 下



第	號
安政見聞誌	下
冊數	三
著者	不明
出所刊行	安政



門牌
號4209
卷3



一萬ヶ所
井伊家

そまこ高さ不昇

一卷
著者

下地ちり下さうとうきときの眼め
眩暈めいき是あ高たかふもままりら
か心こころふかるかててくくんんああい
一ひと余よ及およびびててははととああふふををゆゆ
ふ心こころ身み體からだするするふふななの
大お多お多おををははせせしし牧まつすすままの
けけななすするる門もんをを無むひひる
石いし垣がき二に千せん余よ堤づかへへ
きき頬ほ處し又また空そらてて詠よめめるる
吟ぎんトトううたたれれもも枝え擗たたけけ根ね歌うたひひ
竹たけ來きふふ様よううう展ひらふふ吟ぎん小こ切き不ふ
筍たけをを机まなてて搖ゆきき或もれれ中なかををふ
ぬぬけけかかてて今いまももああききににままむ
ああららががばば形かたち勞なええああるる



金瓶玉

懸そそるるああくくおおれれんんと
ききるる不ふ足そももゆゆ人ひと遠とおそそう
みみてて見み来きすすとと出でせせすす人の
そそううとと不ふ持もち手てへへ後ご
世よののゆゆーーのの持もち手てへへ後ご
そそううとと不ふ持もち手てへへ後ご



稲と破換處不至△清云村同東方日為役田家丁砂利場主武家
 之破換不至△婆見橋主武家町家大破換△之國事場完八幡主社主
 同樓丁里丘丁役代丁古門丁小田向色主大破換處不至中里丁矢東下西
 東城△里子せん千壹丁大破換白綿丁分耳也△引主破換處不至
 △牛山の外ノ稻子坂と表側破換處△同不滿方處不至滿方内裏審
 丁山砂丁村無事不至丁日不組申△大破換不至△林窓役田丁内役
 西方内納戸丁加賀主不至察主丁破換處不至△市若山外尾別板西方
 門田主座大ノ保時色檻角く破換少△月桂主南方處不至△江若山のセ
 犬丁万年極極為△久溫生△奉村丁内院主修業丁大破換處不至
 清雪主換丁為不至△傳る丁破換處△清丁大破換處不至△大手主
 あ方為本内役所富主内役後所積下申終破換日西方正切主同不組
 副審も方大破換△吟遠外酸う橋主丁主大破換同西方大焉丁
 破

下二

△赤坂山の外紀別役奉平日不變ケ橋仲丁和丁役法役丁大役
 田橋破換主南方大破換處不至△六月付佐橋山修不日役破換處不至
 △吉山武家風水處不至△不富日以△北方天井色破換處△西造省
 はき大破換不至△塔の内妙法主本主不至△おひ破換△赤坂四丁西方牛
 呂坂馬激若のう△坂主處不至△兵考毛比至△破換處不至
 △東串目主座此處不至△今井若破換處△六本木處不至△鈴去
 武家町家主處不至△牛橋山の破換處△温君為不至△漏泄々樓
 梁上大破換△布云系丁主大破換△接頭主破換處主大破換燒筆得乐
 御主處不至△引人役處不至△日主不動主處不至△漏泄々樓
 丁大破換△瑞石主を門主丁破換小ヤ△大處不至
 △虎山外委役是主役布云御丁主方大破換處處主△あの方保大破換處
 家主△がせん不若大破換民家町家主處△飯糰片丁大破丸ハ腰主又處不至

○今後の大震にて破損の脅き

へあつ去取ふ葉井丁の櫻井

の櫻井門赤西方神明赤字

三番丁門赤子ハ二日の夜あえ

の大震ハ大道へ倒落あまの

木尾みて山のあたて木づら木

穴木のうち一木各木たの屋

きみんまよう波浪の下すうそ

怪然ゼ一人も魚一木をばく

底板のよ下う舟と突て下わの

玉を付て曲り毛佐又神明

嫁内へて破損を本社ハ

神威烈火やるれとあるきて

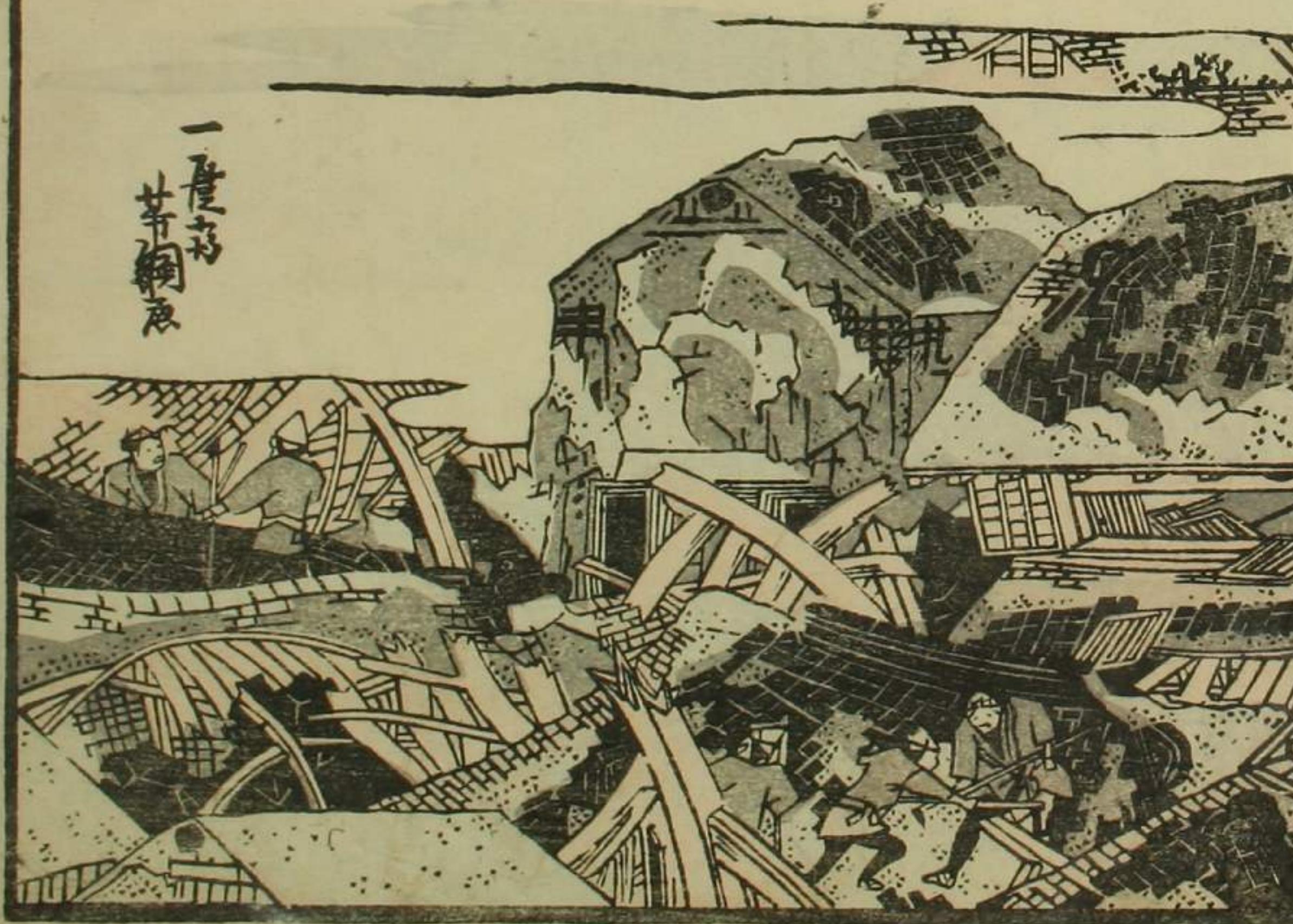
勤め國民清興

神カト

ももづれむ

はな故 仮倉

一筆斎兵齊



ナガミ大島次ナタリノ夜中魚と猿

ササギ傳テ十一月廿日の夜船の千写

シテ小田町の方人人の喧騒りのう何事

をとおとおとせて見るふ向のある山

あらう近く又呑門ふをア居大船

奴三下斗空(よろこぶる)を放石の雷の

震(しんとう)で震動烈(れき)室(しつ)を海上(うみ)に打拂(うつぶ)や

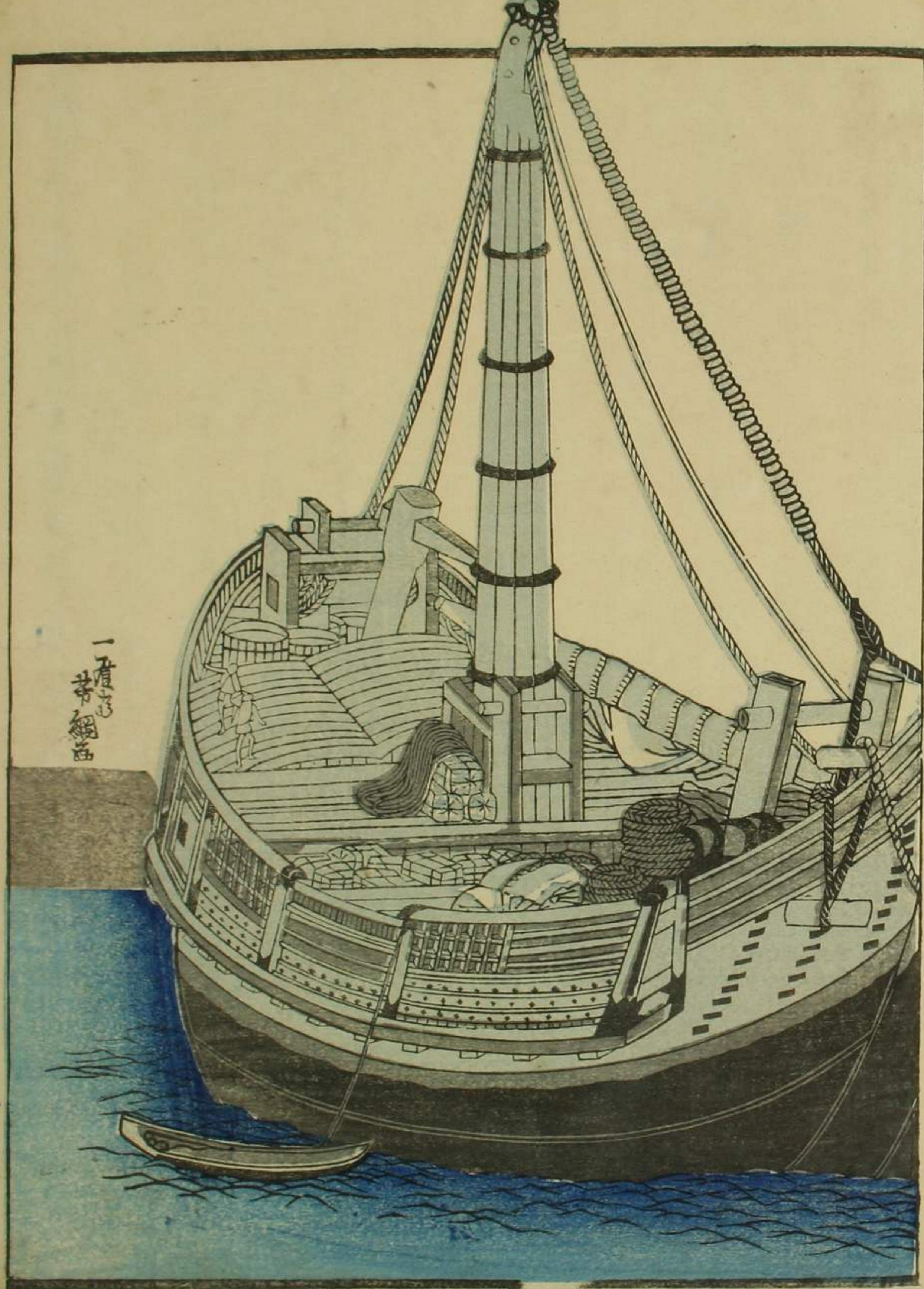
物寂(ものしづか)さ限(かぎ)り絆(くずし)ゆ江戸(えど)の下(しも)す安(やす)

亂(らん)の伴(とも)ある(ぬ)王(おう)家の安(やす)

危(あや)斗(とう)く

備(そなへ)具(ぐ)と船(ふね)を甚(ひなづ)む江戸(えど)へ延(のび)あつて

宣(せん)勅(ちょく)西(にし)序(じょ)ふ失(はず)あるを



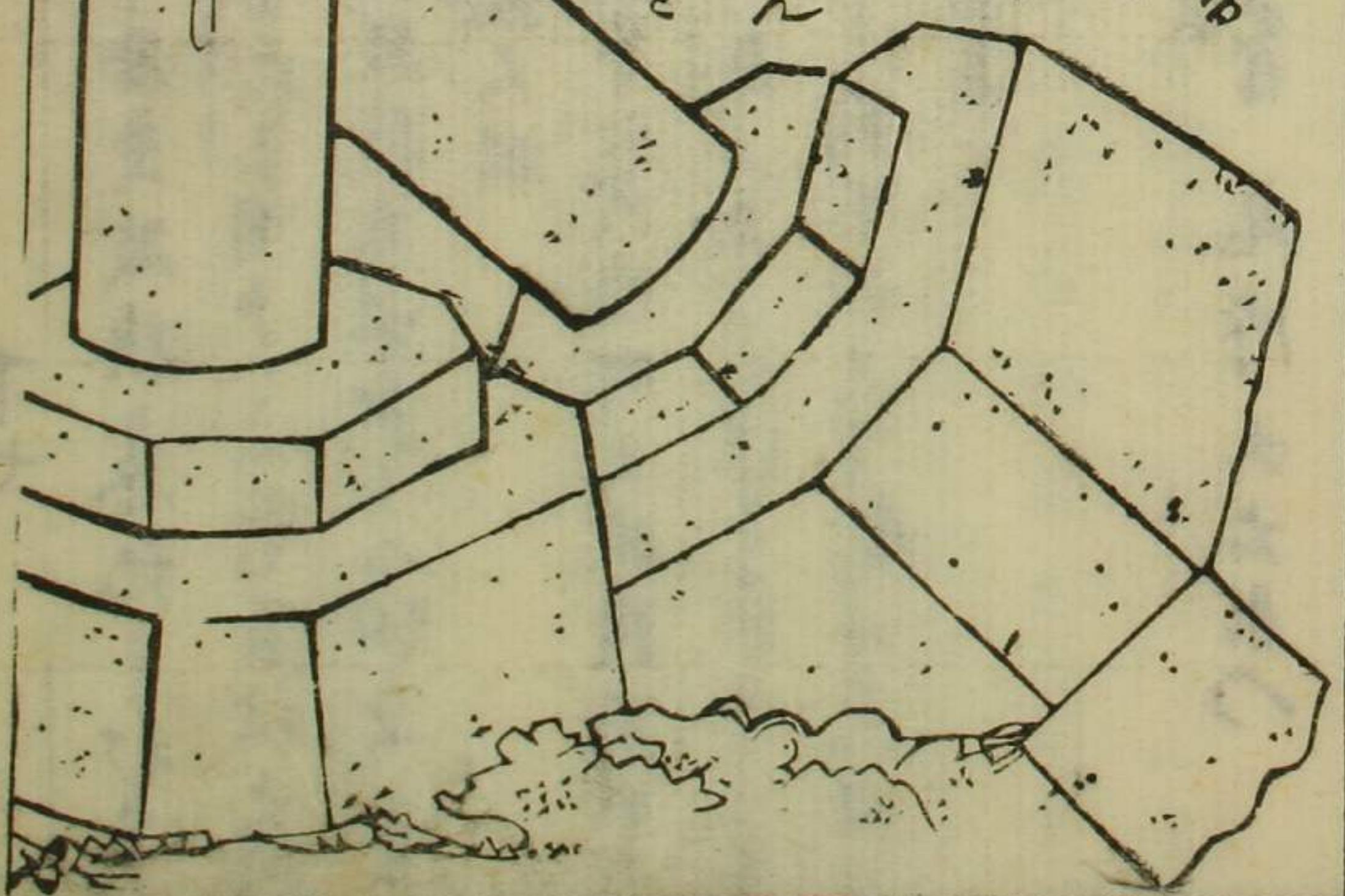
△昂おが友小泉氏と癌の方要る事て余ある在在表小てに官表大丈の事と
きを承りテ桂西遙と名號號を賜と東は十月四日夜丑刻て余レ村内小
て年の程廿二歳女二万耳より死と相承是す由引合一ノツトモルとよて是と
又をまるか其容獰々たる女を甚其れの夫の立候事不見止まつて
又ト半身の石少サリ有るをもんと思一若然み人山あう小泉と引合不見
連ひる夫と又をうひまかと胸(ニシキ)の女のみと想不ねまつ今ハ近頃もさむ
叶ベシモりき迄もんとえまつて送(ニシキ)小泉をねどモ不處村左ラ田の
妻田女といふ老母の御案下旅立て一方の小死と於合ひども猪乳中坐於
人ふくと殺さる不役へと度乳を乞共公才任セモ父へか廻不經年未夜
其死と取ゆ一死と才分のませ家内(今ミ)と定ヤムモニ度て免え余イム一死
成ミと絶うぬ因ニ小泉は而後女の宿う難(ハ)語セセたゞ母の亡櫻(ハ)て娘子の
生(アガサ)死(アガサ)不ひきか万不て死と費來て又連多きもんとえふ墨を呈あつた

龜戸天神社内西口華表圖

二重の皆石より下方四尺八寸斗あり
左の立柱のばくく半ノ埋もあり

右翁社西門にあり此あうる茶店をあは
居き一の木務系(ハ)立て体丈五尺紫木
左の柱に蓋本(ハ)は折底て右の柱にノモ
臺座(ハ)よアヘ埋(ハ)るを極(ハ)引松(ハ)
がど一木家金(ハ)事(ハ)あら岩倒(ハ)わん
木蓋木華表(ハ)根(ハ)固(ハ)るをも(ハ)う(ハ)枝倒(ハ)
人(ハ)の及(ハ)あら木(ハ)を以(ハ)裏(ハ)の墨(ハ)走(ハ)る
不可思議(ハ)木倒(ハ)一木(ハ)

御観前家中



△毛宏下 菩小跡毛毛始差上中下屋皆破換寒毛ノガシ
△毛連外院大破換△万年山毛ねる因トヘ△毛宏社大破
換毛ノ△三縁山塘上寺院房大破換者不多ノ△切年太
武家屋皆大破換△因不令院大破

△新シ様外南方德庵大破換△草木代地町大破換者不多
因南方兼房町毛丁牛燒方先と疑フキリ小澤毛家多々當
方松年毛家屋皆毛ノ主家後毛多々因不伏見丁から丁久保丁
毛丁毛毛毛丁毛大破換ド者家多ノ

△毛下門外ハ破小屋毛人

一尚百錢半支文

新毛ノ丁毛月

毛主序號

尾牌六右毛ツ

一小株二十栗文

毛主序號

本扶丁毛月上前地

新村

毛主序

一毛二百文

毛主序號

本扶丁毛月上前地

新村

毛主序

茱漢 一 様
一毛五毛 一 様
桔子 二 様

佐喜毛志序標代友不
下慈毛志序布佐村 百姓
七序毛朱

△三田毛赤羽毛向毛有馬彦少毛毛水毛宣亲脩門の際
より東の方へ百百毛余搖者毛ノ△舊久振表毛え破換
毛外毛毛家屋皆大破換毛△總坂東毛大破換毛
△毛町岩不多ノ

△樹木毛大破換者毛ノ△毛毛毛大破換△本拔者不多
△池上本門毛大伽藍悉く毛門未不換破換毛

△金毛桔毛方本毛毛ノ△破換毛毛ども岩毛ノ
△因町毛方大破換毛毛ども岩毛ノ△牛町毛牆小町南町

小木門住和毛と云旅毛毛一新澣毛毛外大破換
△芝毛羽殘毛毛大破換羽毛毛毛岩不多ノ

△一株千百株 津門八幡社門 喜多子月 幸芝庵 東七

一岡 千百株

津門八幡社門

喜多子月

同

人

○紫井町東側とも走丁燒るあり仙臺城中座敷筋にて止
止をあへ今津板中座敷筋にて止る

△一全武朱ツ町内ト

喜多子月丁 塚屋

幸芝庵

一全武朱ツ町内ト

喜多子月丁 塚屋

幸

幸芝庵

丁 株 金

幸

幸芝庵

△仙臺候 油諱慶邦令發北農五分て隣玉く然進入四足舞
松板板子板毛と不使は入用済年元正納戸金毛と御坐毛と外山門前
にテ町ノ老生燒失毛不使床櫻波毛必毛と疑深くうべきとそ即日
四足洞毛と山玉米 五年二升入幸後ウ引別不當毛と下幸

又町役の老者人矣舊人至重更全三分ヲ除て下幸毛半少民家方以資金約毛
桶毛小室のど大板多の付家參給 多人教の銀難破板ひより難毛と
毛とく底波小室の又幸毛小柴升丁の付居田原家波世と幸毛何某
毛と毛大口波毛と幸毛食家搭へ方小意毛と毛縁毛と幸毛廉異毛と
毛と毛和けんと毛と幸毛食机の毛と毛人毛と幸毛往方毛と板毛圓頭人全
金板毛毛と幸毛と毛と幸毛人これを毛と怪毛と大意毛と幸毛下毛
毛と毛不才幸毛と毛の怪毛毛と毛と毛毛と毛毛毛

○後施例明石丁半板丁半丁四方燒る板毛路板上幸毛と幸毛門而細門
板毛板大板板毛丁半丁半大板板毛多々燒失同幸毛△參毛一幸毛と幸毛
板毛△幸毛の本業被換毛中傷房大板板毛而毛と日不板毛燒高立幸毛
町家毛被換幸毛と毛大板板燒毛と毛上板原丁

南小雨承丁南本ウ子大木嵐子日山方あハ丁勢割沟春本多被塔生ア
南表側破被接半伊擇船接中中一防列被中中木大被接松平生之接上
中底中川接よ南表被接松圓防接上中大被接小笠系傳接中中大被
船中接異半接中南表大被接尚あア△金門橋あ方去移接下中大万年
橋被因法防接永井寺の接下南表細門接下中大被接圆情接上中大被
接△木接子ス丁用よう東方武家所事とも大木嵐接事多ア

一 繕武百景文 五本内被生多紀分能入 木接子ス丁用 もの持 大之希

一 木被立筋ア外く繪武百景文ア

四 人

△割沟表當方松材丁保至接場因接下中大被舍因防接中中大被尾接
下中表木接モも漏不ア△東方三の橋 奈良接下中大被中接下中大被
表の接中南表場山接中中大被接橋奈接上中大被接上中大被接
中大被接尾接下中大被接尾接大木嵐接事也大木嵐接△船屋尾接丁竹川

丁表雲丁水屋子八表丁大被接為要ア△手表ら丁深ウ丁獨丁大被接
丁大被接△山下ウ内獨接為要大被接

四 本被接△内松半附之助接修接後大被接表接中接後の方是接
此の内小方も約莫應接有る被接接する應接接裝先布に至接て此
河船橋广被丹相若被接本主内接小笠系接接小笠お釋被大被接
接大被接△松半紀大被接又長列被接の方大被接そ大被接一内可
用而表大被接為要ア△外接田舟伊擇船接上中大被接表接
被接被接表接△赤被接内大被接又接之の被接如人馬く凡ア

△建大門色大被接為要ア日山方町室大被接△平川大林社被接輪内

物義生産機器を整頓するがにし寒水而之候とウタノトキニモシテ町家大
太被炭西多一△耗丁表例を被持候事在省西ガ一月不南カ裏事ハ署主
△耗丁塗模丁多く竹毛も破損候津家毛トノム記也九段坂候田丁
廻板橋此毛外破損者無あり

四△小門丁一秀の内一書系角本家事度候毛都方面次席模内瓦綴所候
既燒る處ハ皆手被系式候被持之書系そね平坐秀被奉々度候やう
日不外方申樂丁塔回候中候也△正旗本の下一書少方鷲の葉道候
老若門前井止毛日不内被授向南田中候る松半身度候向え橋宗院
後邊之助一色度也一色邦三燐木燒る又塔田模あそび因脚本井度雲磨口
八分部佐義令之座候承久保根模をゆぐ日不向側候田木被う御城御荒
門事我を養え本末多新見松川内木林佐義をゆぐ△日不喜御保本
多く開下木坂大鳥荒井事ニモトナリ

四△小門丁内被綴所候被持毛同西但サ瓦屋敷大東候近冬木と焼日不本圓
平天勝大志勇之席本同萬家申條申務中寄本吉井木燒黑川筆燒毛止
△被持模縫縫被持毛大鳥燒木席
△筋遠山の内村ね丁寒舟丁丸軒丁左鷲丁柳本那代中右橋本丁并參
格体原丁毛の内太被候事不多一

一 薦廢革而立十俵英治十五年
一全金武夏威元年

井原町奉月 未名 底之席

一 桃牛、牛持 佐多日根引 佐多因屋、春人妻
一全金武百八十石或分 周寧町大根引 大根子丁 家能

△赤闌馬方毛空等丁油丁塗丁本櫻丁大傳子丁本丁毛被持毛五方為

西か △同南方の漁港は船底修復済丁を若門丁内 △人形丁據
青屋丁枚木丁而く被換船而事 △山側丁場内丁小舟丁邊あ本焼失
船主移家入る事少々 △小田原丁漁船内丁は船主被換の事少々
△日幸橋中方寧子ナモ着令川橋と本被換事少々 △金華丁後半
教書原丁分漁舍所事との内而く被換事少々 △日和方幸丁鹽橋内
大破被換并わづ根木室系繩根と申た被換裏回方を被換 △船口南有
海奏慶安細川根良根橋内船元根草便被換大破船而少々から事長
島波幸介被換 △日和方幸丹被換休世園防被換被換後被換大根被換上
屋敷例事大破被換事多々

四 大名小此而く被換船而事 △板幸金橋内水井幸の被本多仲榜被換事
松幸古京根大井又被換大被換事大破被換

五 八代湯河琴室大浦中之林木幸被換事大被換事大被換事
被換事大被換

これより止る毫に角所船修繕未事方越屬る

四 石場が山の内本多城中被換事少本多安慶被換被換事而被換
大破被換事多々多く被換事總被換事大被換事

四 和田金口の内被換事大被換事少々被換事少々被換事
被換事大被換事

四 太山島の内大被換
右之外山島内町武家寺院官社町本多事少事少々被換
事少々被換事少々被換

△牛鹿口の内大被換

△小品門高武丁月宗助地宿帳候年後世禽田原す根津の年高年
十五年十月二十日夜地表すも西門海陸も焼肉へと近づく日八月
秋の老人引ひと同十一月以ては氷火の難最危一海も度つりの年危
難然逃さむを地ふ是故あへまへ一而弱きと候是を税毛よと
うよとろべやみ後申みそよモ一ツの祠堂をおもへ禽田を税毛よと
此後たゞ代友へ傳とあり一又奇どりうべ

△渡革八野寺町

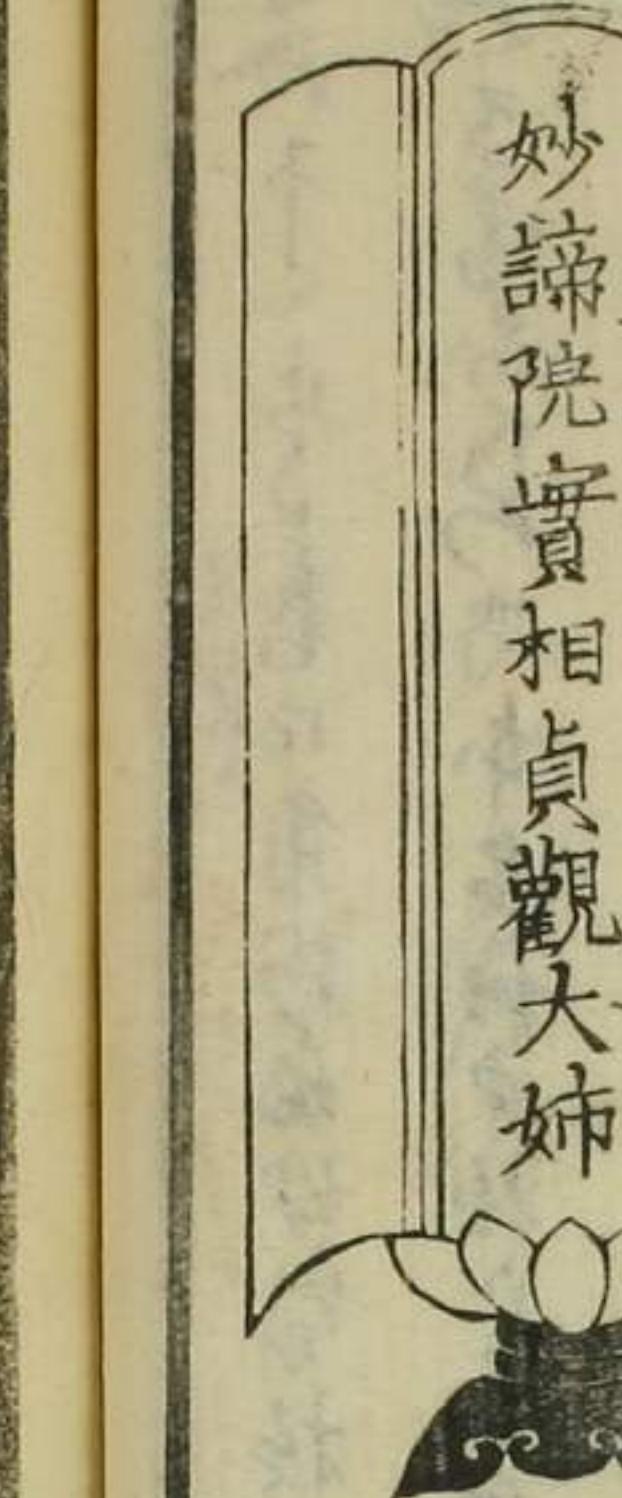
曹洞派禪宗 天龍山 主宗寺

十月二日夜地表そをすも宿房を外候是生と燒失一物も残るある
主後燒はる所外なるみ善燒亡の如なり後脚の主あること又奇と

妙諦院實相貞觀大姉

年号月日

是ハ壽寺且形千石余之壁本ニ
御灵牌の下に是の主ある不甚
考妙と云へ



△馬場先席門高固丹羽長守棟藩車

山口秀平

右手前断き固役をす。右の丸表あくと見附橋兵主見附
齊番所共橋はきと見附橋やね松木右衛軍とす人地表と
尼より次のえをあきと見附と呼ぶ。書所橋筋か屋敷
右の腕を表されせんと見附。蓋し立同様主ある事く火と陳
居を被されまも人もある者を。景よりては死と覺悟と
定北を待居す所人附死ありは休をさんと死と覺悟と
急止と見附。小諸城主を雨落す宿をや火を取る
うめりとくと見附と見はしてみかみと李至

將ひあらて曰今がは急變ひのぞ我をそろそと
そも財へばとくもあらへと見附と見はしてみかみと
用意をあらへ思ひと見附と見はしてみかみと

おせられ共欲せあり。假索父正城が中ら
金と義の免へたまへと見附と見はしてみかみと

おみかみと見附と見はしてみかみと。頭を切被うきよと
感切被えとて高容が度としきと見附と見はしてみかみと

腰がまくえとと見み腰を切被うきよと見附と見はしてみかみと
父の申も申と見附と見はしてみかみと。苦痛の体もと
をある共金と被る。おもそか人情と加増の上假多の腰被を賜しそも



明暦三年

正月十八十九日江戸大火

火を燃や七十万九千人至いた所下

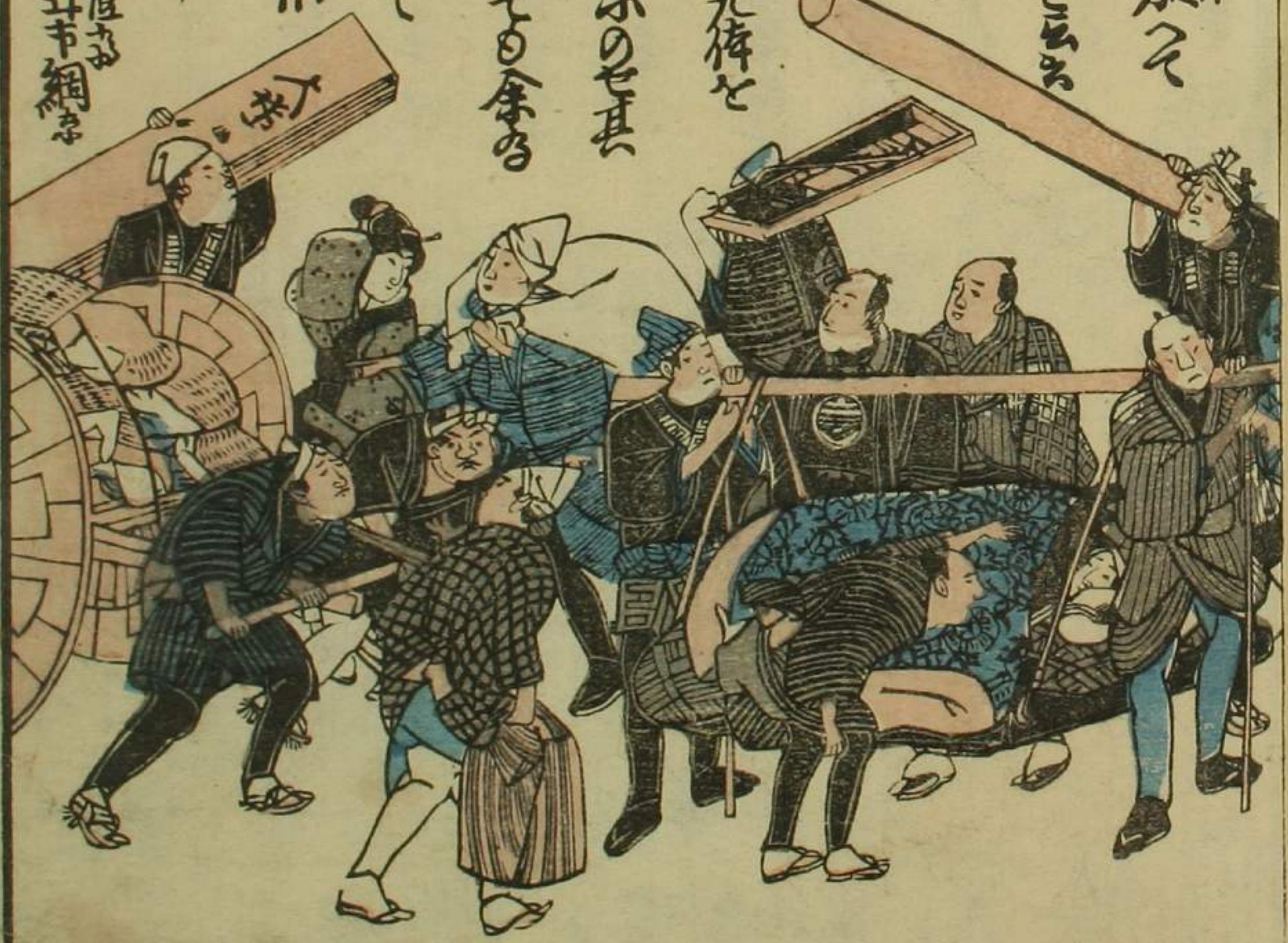
諸宗山並よなが山並よながま回向院まくこういんを延立のびたて在いた

右追ひ渴かと修しゆせせややなな是ぜ莫ま大だい不思ふしふひひる

今後そろはれの發は乱らん若わの高たかうう音おとここづづママア

何なややて其その歎あとと身みホホのの爲めめめりり中ち中ち

諸宗の寺院等いん十じあり其塔中とうを加くわて
一寺いっし不立人ふりつじん完葬わんそうするめめに廿方余じゅうほうよと云いふ
是ぜ宜まある事こと也や而ひ済す考かう不ふ要よう及き
實じも明磨めいらより遙とほ小こちちききを悟ご
物ものを奪だつふ一いああつ太だい參さん火ひ落おちててよよ先さ候うと
錢共せんぐく並よなが色いろ又また四斗よんとうねふ入車いりくるのの其
寺花院じはいんを送おどる客きふををと實じふ欲ぞてて余よる
他邦ほかほうの人ひとは毫ひととおざざすす又また少すこ小こ少すこててて
甚ひ苦くるの停てい相あととせせ一いむむ子こハ眼ま不ふ見み
母おももののああままは其その大だい歎あとと身み不ふ見み
築お築つきの遠とお不ふだだとと示し云い 一直いつお
苇いの編あみ



近府内が火災と脱きん巻の住居をも

漁家又は船運とあことまに余の多きす。

は地火附り化毛小屋の事。船上倉の取扱

うる荒布格よう四方とろ小は下より食の扱と

手手取り化毛小屋。施す建家の破損の取扱

止。共農筋植ゑ。土の散乱せ。停の

実ふ穀恩ふ争う勿論ち悉か不も安倅

きふかとらこもれ無停。又船くとまど今

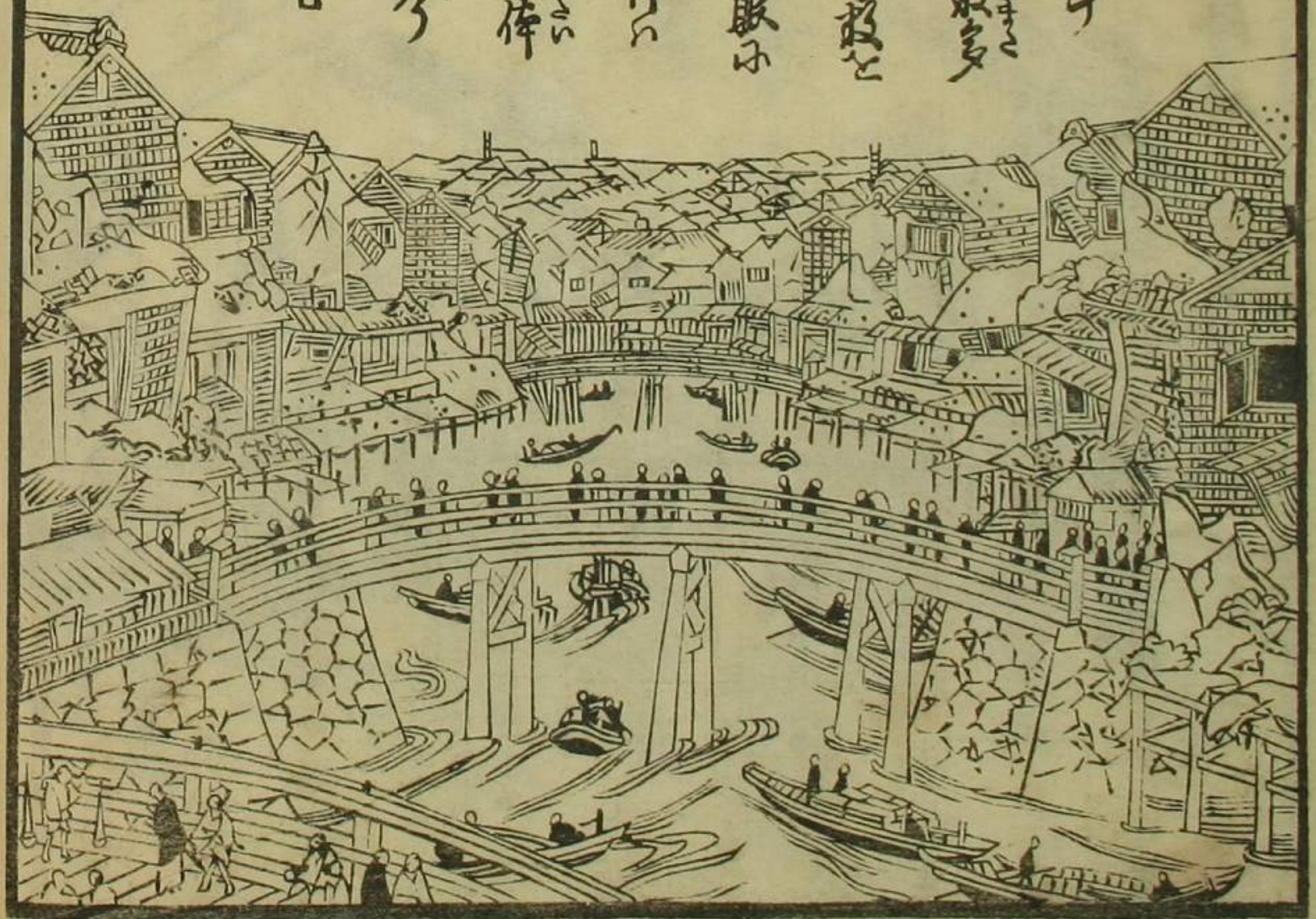
居ふあるえ。化毛を取の。人ふある。む

れふ手手交換の事。ふせん火災をうへ

又傳役とりひきの事

一産

精鑄



△舟を免。舟のうの徳萬ふゆりとりひきの高代の老人家實うふあるありの世
また。辛車東のうの闇茶ふつすふうれば。行人疑ふ。もし。そべく。茶
い草を賣くる。船の起。と。まよ帆毛。支國十二家。辛酉年。是日。茶葉。豆用。始
○。天保二年二月。武奈今。を。用。始。天保二年三月。而文。茶。茶。武奈八夕。帆毛。りの。茶。裏。一。是。よ。う
茶。天保二年。以。天明二年。五。百。文。身。之。合。又。同。七。来。年。以。而。文。身。之。合。
主。舟。舟。免。の。法。不。米。食。と。お。殿。強。亂。多。う。し。西。き。り。芻。ふ。衣。天。保。未。年。
稻。萬。阿。波。ね。ふ。て。角。力。へ。大。入。大。競。馬。又。芝。居。の。中。村。飲。方。通。の。名。詠。聲
あ。で。大。あ。う。文。ふ。飢。饉。の。体。ふ。あ。う。老。是。全。く。公。う。う。公。故。の。多。厚。ある。不
居。不。う。う。べ。一。○。天。保。八。西。年。五。直。別。事。分。派。色。用。始。○。同。九。西。年。花
ふ。花。百。文。身。本。に。合。八。夕。被。始。○。十二。辛。土。月。十。日。よ。う。天。保。改。革。
支。居。へ。後。事。人。努。逃。所。て。船。女。舟。九。耕。仲。方。舉。公。後。運。上。川。免。う。傍。發。

お財政とさう。因去年日光に社奉り。弘化二年七月下總に戻
在大内農桑日中堤へ水溝あゆとうの築造大掛かる肩まである。一暴漁の如く
直屋代役來止^{スル}又を立村に家源と死亡人多め後でひそかに移り改めと
すれど故ある陰町聚居^{ヒサシ}を連なる。嘉永二年二月小金は無税と
の因に年八月首大雷一枚^{ハタチ}の内門牛馬未^シある。因ふる年イキリ^ス取
裏傍へアリカ取れ又漁を禁する坐て徳度^{ハナト}海港に固^ス又石門の海中へ
礁^{クルムカ}を揚^{スル}ある。因七年六月ヨロキ舟^{シテ}舟^{シテ}破^ス開^ス發^ス
○同二年十月二日は彼の太田農^{ハシタノ}元農^{ハシタノ}の手付生^{ハシタノ}を因不^{ハシタノ}解^スと
改^ス中ふりまみの人^{ハシタノ}見えぬ渾の陸施或^{ハシタノ}築^スれ^{ハシタノ}作^ス又^{ハシタノ}具^{ハシタノ}アツ^スと^{ハシタノ}築^ス
太篠^{ハシタノ}車^{ハシタノ}町^{ハシタノ}と^{ハシタノ}奪^スあん^ス故人^{ハシタノ}の手^{ハシタノ}も^{ハシタノ}か^スる所^{ハシタノ}と今^{ハシタノ}眼^{ハシタノ}不^{ハシタノ}つる^スと^{ハシタノ}
是^{ハシタノ}一^{ハシタノ}英^{ハシタノ}中の^{ハシタノ}奪^スと^{ハシタノ}ひや^スせ^スが^ス恭代^{ハシタノ}の人^{ハシタノ}よ^{ハシタノ}も^{ハシタノ}福^スある事^{ハシタノ}ひと
飲^スお銀^{ハシタノ}のあ^{ハシタノ}と^{ハシタノ}後^{ハシタノ}の人^{ハシタノ}お^{ハシタノ}か^スと^{ハシタノ}金^{ハシタノ}と^{ハシタノ}活^スて^{ハシタノ}此^{ハシタノ}こそ

上野守^{マツダ} 犬跡^{マツダ} 先主御^{マツダ} 治^{マツダ} 草原院^{マツダ} 五社^{マツダ} 加^{マツダ} 称^{マツダ}

右の年十月二日夜地震にて其住居^{ハシタノ}甚^{ハシタノ}烈^{ハシタノ}震^スて^{ハシタノ}其身^{ハシタノ}も^{ハシタノ}震^スて^{ハシタノ}五十
余^{ハシタノ}歩^{ハシタノ}の程^{ハシタノ}を走^スあた^ス小^{ハシタノ}石碑^{ハシタノ}立^スて^{ハシタノ}走^スて^{ハシタノ}其身^{ハシタノ}も^{ハシタノ}震^スて^{ハシタノ}走^ス
其^{ハシタノ}業^{ハシタノ}みづ^ス板^{ハシタノ}木^{ハシタノ}を落^スて^{ハシタノ}走^スて^{ハシタノ}其^{ハシタノ}身^{ハシタノ}も^{ハシタノ}震^スて^{ハシタノ}走^ス
り走^ス隣^{ハシタノ}家^{ハシタノ}より火災^{ハシタノ}を走^スて^{ハシタノ}大^{ハシタノ}火^{ハシタノ}あ^スと^{ハシタノ}走^スて^{ハシタノ}其^{ハシタノ}身^{ハシタノ}と^{ハシタノ}本尾^{ハシタノ}
走^ス除^ス居^ス而^ス小^{ハシタノ}日^{ハシタノ}而^ス走^ス丁^{ハシタノ}名^{ハシタノ}を助^ス方^{ハシタノ}の遇^スま^スの身^{ハシタノ}大^{ハシタノ}火^{ハシタノ}を^{ハシタノ}走^ス
如^{ハシタノ}勢^{ハシタノ}波^{ハシタノ}之^{ハシタノ}如^{ハシタノ}火^{ハシタノ}走^ス一^{ハシタノ}間^{ハシタノ}を^{ハシタノ}拂^ス居^スて^{ハシタノ}其^{ハシタノ}身^{ハシタノ}と^{ハシタノ}其^{ハシタノ}眼^{ハシタノ}
走^ス毒^{ハシタノ}氣^{ハシタノ}也^{ハシタノ}而^ス走^ス丁^{ハシタノ}而^ス走^ス内^{ハシタノ}居^ス又^{ハシタノ}弟^{ハシタノ}木通^{ハシタノ}うち^{ハシタノ}其^{ハシタノ}身^{ハシタノ}の^{ハシタノ}人^{ハシタノ}と^{ハシタノ}其^{ハシタノ}母^{ハシタノ}と^{ハシタノ}娘^{ハシタノ}と^{ハシタノ}其^{ハシタノ}妻^{ハシタノ}
走^スと^{ハシタノ}起^スひ^ス一^{ハシタノ}氣^{ハシタノ}何^{ハシタノ}有^ス怪我^{ハシタノ}ひ^ス居^スは^ス伏^ス其^{ハシタノ}身^{ハシタノ}あ^スひ^ス一^{ハシタノ}發^スや^ス
而^ス落^スの^{ハシタノ}方^{ハシタノ}大^{ハシタノ}勢^{ハシタノ}壓^スて^{ハシタノ}空^{ハシタノ}の^{ハシタノ}落^ス木^{ハシタノ}を^{ハシタノ}轟^スて^{ハシタノ}落^ス葉^{ハシタノ}下^{ハシタノ}

序初夏を度候の間空身でて身老の養育無づことは一因哉も引立
事と在右處五年余りより一日安むらず定處庵ある本拠故事も亦
重近猶未だ發展しもたらす稱號も未だの昔猶立つておまざらに内
難が起る事多難更をお助けを假想致焉へりれども誠に凶慶也
あすう般十日数日あらび下さきお堅の事も未だ未だ有りて居りて
山中もあらう事も誠に寒暖本は後世の堅より是れもあらう
山中もあらう事も誠に寒暖本は後世の堅より是れもあらう

△や谷里丸屋丁橋辺山茶屋あらくと木と山の山地裏みて山家の大根根
木と山木みて向土木狂れぬをて根皆左と木と山の木と山木根根
筋すく下也とあくと人間すくも根皆左と木と山の木と山木根根
毛ひきるを木と山木根根穴木を留すせを夜半に山家のか助力する一改日
一月へ子細を書體乞してほす大運ふあらき太う称木と帆よ舟うけ付
ぎぬるふうと船を飛ると裏山の事ともうとあらん

△牛糞食金瓶説佐凡せ因の内不る致もな不休弘のか謹
天の感想もみて獨孤玄來一勤者懲惡り心か絶つてのう
きるぞ雲東むかしの風義究明本源にて總事怪も不思議とせん又
弘祚の利害もあらべて後て予ハ不思議也又するたゞもあら
△予ら知る人の限は北辰十日水ト辰日の星也へまくは不妙
或承亡父と度不思ひ又云ふ不思ひと考むて物と云ふ
度えらるゝ歎歎うるがなこの達て云々母の方へあらうと身の愁を
嘆歌ともんとお絶きと母見と病きへはつ心不快家と病ふ
を不然る憂も思うりのふてやうべーあざり哉とて歌もきく歌と
元も役きさあら休不思入の憂莫もあらうとさううと歌ふと歌ふと
逐せ一望日不脱不彼の大悲衰かく怪あとせうう歌とまほ哀れ
良き十九晚とさじとそきみの歌役ももとの歌を残さまく

△又演至祝世亨雷林門の本像不乞作也地農とある度不遂即ち
との便利もくは附不別函不うち紙幣不張紙か一卷不本像行處のあ
弘仰角へきひへすと莫を示して虛鏡を止めとゆく如きとも本像
トリの秋きあつて起は地農とむらを不地處のあ不弘仰角へせり
人らとかうて通すとせん先もまつて一章事うり

△因不本像の裏の方不證と初めうまうまいを知れとある手足を
けるうじるぬき日解とそどばせ是沈ふほとこうと毛祝事のあき
らきと毛のひと不證ひうとそく少少法ゆきう是ゆづの毛祝きう

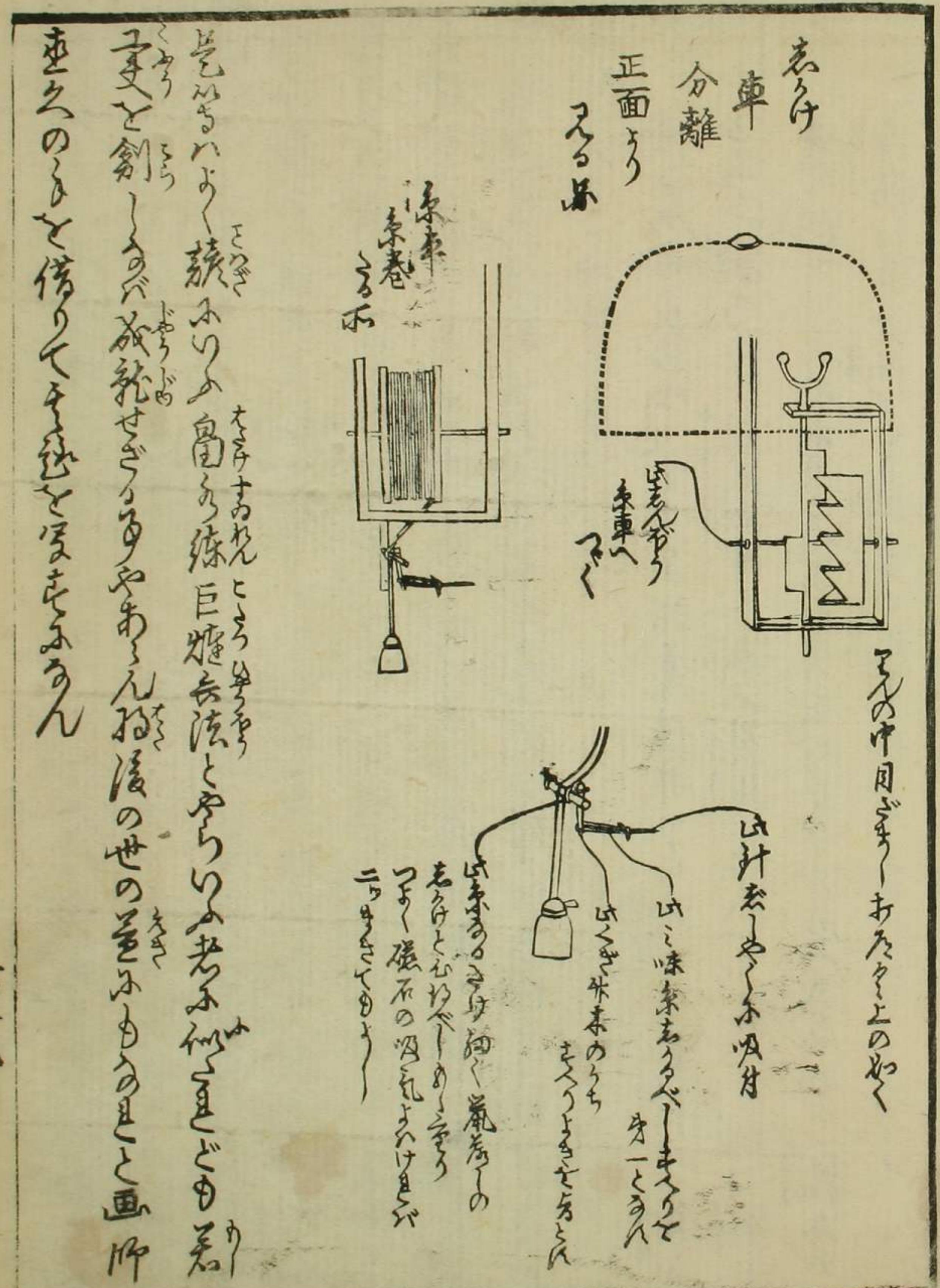
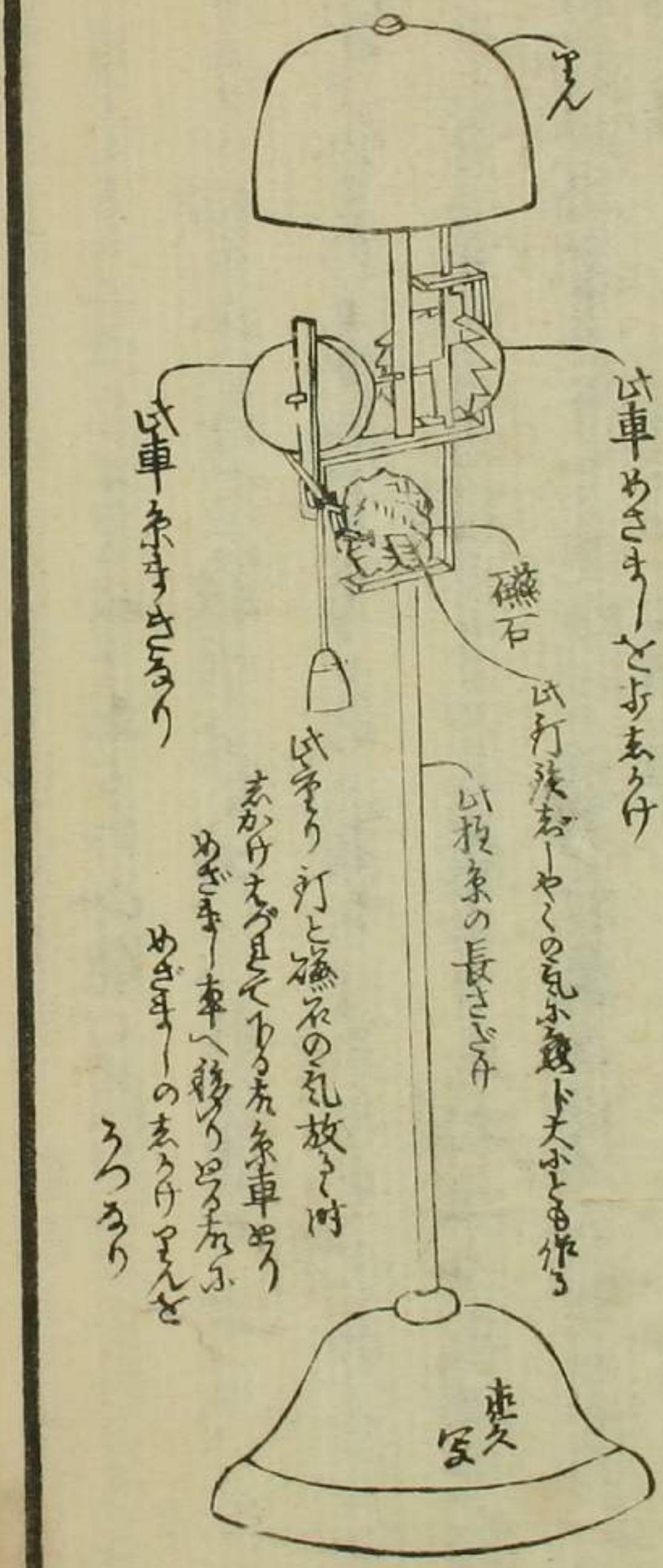
因不の付付古室ふに草不二ふち不證くまうをふひとのよより
お葉うとまく千付のモロや被山號をまうて後不て拂るの
れ前不あるニモのある一更アスヘテヒル必絶とスム人笑く人
金怪トヨリハヨウクノ種もてはれ又退トモリキとこ見

以林の対をどうり似ひ事うてナシムヒ巍の後拂るの社奉のある
足不するト一極るふけ方ニ極明並へ道人のおありやある一更アリ
あり彼是人となるふ御やアリトリハ老キ^{アリ}若ヤキ方の本る不左
らぎやと御モホナリト付不まびお遠をきをお内^{カミ}又拂るの本
ふ至不何付のるふやらニ極明林の社奉ふゆうを」とるん是専
依て神雨あるうんとまゆ^{アリ}アズハヤー今於ニ極の社奉ふを
ホスと腰^{アリ}モ^{アリ}腰^{アリ}腰^{アリ}の御もあ付^{アリ}と是もての禮^{アリ}故
きまび清茶の本るも又不^{アリ}後^{アリ}とものひの禮一

といふ眼鏡^{メガネ}金^{カネ}ふこまき余の旅衣^{トキヤ}と不^おお^き
拂^{アフ}るふ被^{ハサマ}の二日の歌^{カタ}時^ヒと^ア不^お吸^スつけ^スよ^ル古^{アラ}行^{ハシマ}
モ^ア行^{ハシマ}來^{カミ}く^{アリ}と^ア不^お立^ス不^お立^ス古^{アラ}行^{ハシマ}
は石^{イシ}と^ア變^{ハシマ}と^ア不^お立^ス不^お立^ス古^{アラ}行^{ハシマ}又^{アリ}一^{アリ}方^{カタ}う

大名丸の日ふもあぐれひきんと並へ居ても候と吸へねば只のふ
 実あて多くの年と程とまでいはれきるの所らきこるを大ききの損毛
 をと心よりくじめしるがのほら時の大地震ありを後被石ふ候と吸毛
 毛のとくふ付ふよくて大地震をも承あく候不候と吸へざると發せ
 せしものゆうのう一是ふ付て或人の地震時半とりよのを送らん
 とそ景と形にきとあふ室してゆくと

地震計 全圖



義山ちひよく族ふのふ島らく殊巨體長法とやらりふ者ふ御直ども若
 子丈と創しきび成就せざりあらやあんね後の世の量ふものと画仰
 重久のと傍りてキミとまをみうん

合糸赤のあ葉庵まで或人呼^{タマ}翁^{シテ}休^クの後^ハ鶴^ハ掛^ル
又^ハかまそその附^ハ智^シ翁^{シテ}昇^ス松^モ建^ス終^スあす一^ノ湯^ハ亭^モ
食^ハ食^ハふらひきま^スび^ス息^ハ松^モの宿^モを^ハ場^モ座^ムふらま^スく吹^ハ物^モ月^の
内^ハ水^モと^ハ涼^シう^カ浴^ハ下^ス筋^モで^ハあ^リと^ハび^ス張^ハ井^戸聯^スと^ハ終^スと^ハ人^モ
御^ハお^は居^ハ西^モ改^ス革^シ翁^{シテ}衣^ハ紫^モ子^の庭^モを^ハ場^モ井^戸のを^ハう^スと^ハ人^モ
五^ハ掛^ハ不^ハ成^スる所^モ理^ハ立^ス終^スの^ハ是^ハ水^モ衣^シ翁^{シテ}水^モ湯^モ衣^シ翁^{シテ}水^モ筋^モ
あ^リま^ス湯^モ吹^ハ出^スの^ハ是^ハ外^ハ不^ハ能^ス井^戸の^ハあ^リま^ス湯^モ吹^ハ出^スが
お^はれ^スき^スゆ^スき^スり^スり^ス

國^ハ不^ハ伝^スア^リの^ハ叫^ハト^ス不^ハ逃^ハ裏^井の^ハ減^ス歩^シ一^ノ卷^モと^ハ事^ト
が^ハ在^ハ縣^モう^ス殺^ス人^モ井^戸ぬ^ス自^由離^スて^ハ一^人と^ハ一^トを^ハ捕^ムや^ハと^ハ
主^モ汲^セと^ハや^モ又^ハ死^ニの^ハ勢^モ灰^カる^スも^ハ死^ニざ^アれ^バ一^人又^ハ
云^ハ殺^ケと^ハ何^モも^ハ死^ニの^ハ陽^モされ^ばと^ハ又^ハ死^ニざ^アく^ス

△早^ハ中持^ス大作^ハ十月朔日^ハ

西^モあ^リて^ハ急^シの^ハ中^モハ^シ急^シ
秀^モ次^ハ二^日の^ハ夜^モの^ハ恐^シ表^シ
因^シて^ハ入^スて^ハ次^モ令^シ表^シ
戸^モへ^ハ逃^ハう^スま^ス尔^モ十^カ
ハ^シ要^シと^ハ想^フか^シの^ハ次^モの^ハ
未^シ下^モよう^シ巾^モ山^モ立^シか^シそ^シか^シ
急^シう^カま^スど^ハ觸^ハ感^ハう^カな^ス
足^シ草^モ下^シ押^シよ^シて^ハ追^ハは^シた^ス
夜^モ火^モ下^シ刺^シと^ハあ^リぬ^スと^ハき^ス
十^女ひ^シ夫^モ疲^シ最^シ教^シち^ムの^ハ
方^モ壁^モ逃^ハ不^可と^ハ辭^ハる^ス

一筆翁^{シテ}益^シ奇^シ画

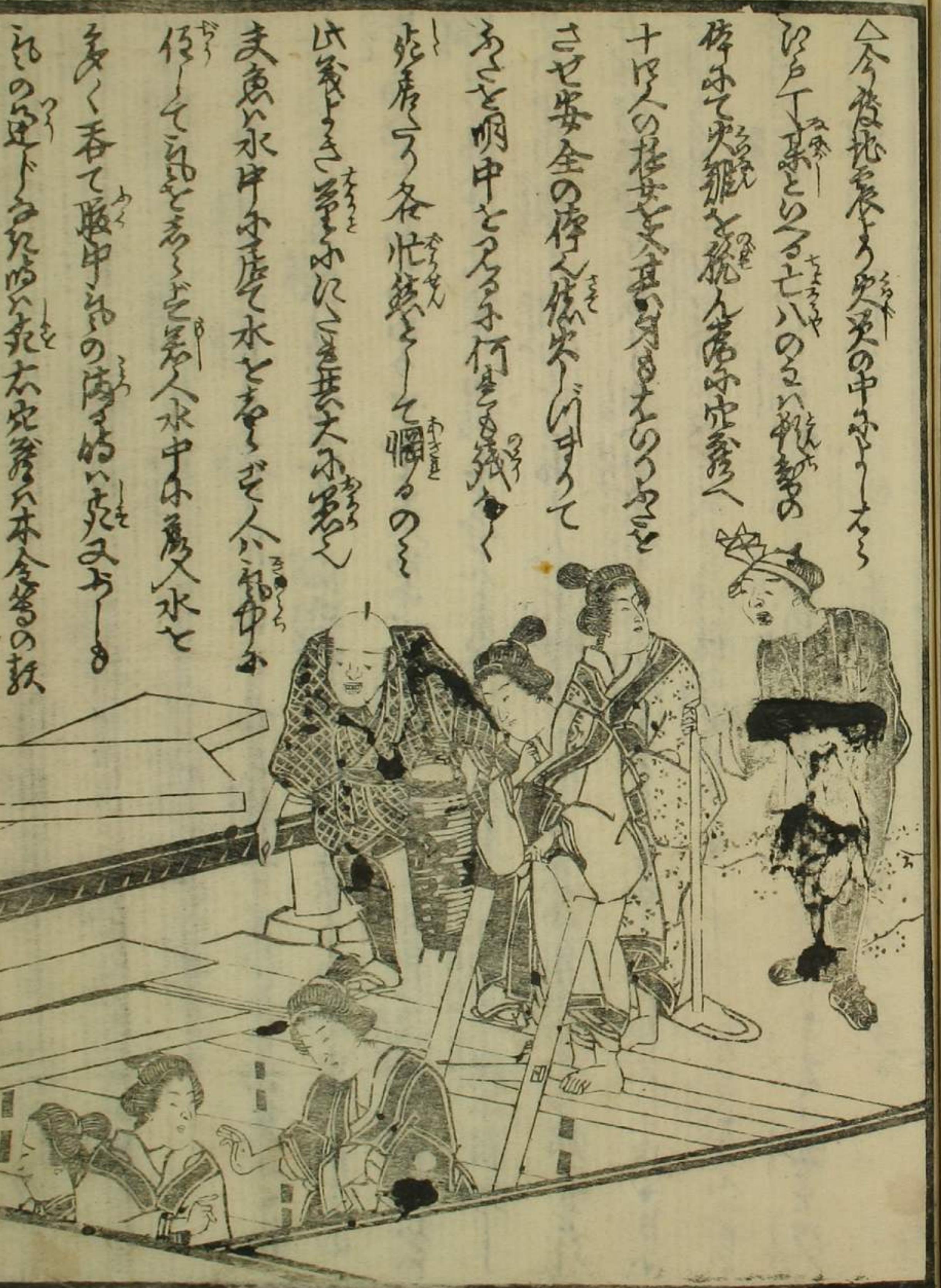


休ひるうちをまよひて居たる夜店の角や、ひとが煙のことをかうと
 さきゆるふはやトリーナー街の影からひの様なまことん一人のまごせいたるふ十女、姐
 と前進とまくるふまよひを嘆くふらひて思ふのとたせびくくみと恐れ
 わのまごせ姫の柳橋ある蜂須賀小走が女坐と足下の主人太作とふく田所さ
 めのそば一色と太作とまよー宜石斗ひと駄をまき赤足足下す延せんとま不
 やうん左助一色を候惟く師さふれとをむけまと見ゆ一色を嚴重に一色され
 いさきねとあくつろひまやせとねま一人の娘さむなくも子一色と持辰と
 おとすかおと辰とおととひをた我家へ延えうまく其由を告其陽の容と
 説けたる大作へ深く歎き且其色を聞ておおぬ多の金不一驚と添え其家
 左手をとて右手を去寅年九月船御の付浦蟹へあつ留まく家内へ
 右女みち子の侍女下男三人あつら也着て其家度生下サ下男共屏先
 はみち子の妻を外ヌ赤茶をえ入ら今も奉とおひだ一金勞尔

御宿家と挽出あがぞく苦痛とあひき一色と一書とあすめ往來でのれんと
 名ふる大作の陶然のとんと到りよしんを勧めんとあひ次第の筆をとて解き
 一十九日二日夜始てんとて五在みぬとも一筋小走りへおどしてほくは
 ひあきそりへ今く家内は人をあくらひますとまくとくとくとくとくとく
 つうとおれかづらひとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 成がくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
 とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

右書へ中村太作アドアセキモニト後文や出そくまよこ多おまはー左十女と
 佛事の御不夫夫のあい妻細とひまつ一色をまよーまよふ小走てば事とそぞ深
 納あまきーとび且ひもと届き中村と共ふ志和にて江戸から農家と貯除スミテ良
 ベー二ふ女ハ立作碑て中々工事と傳べと容がわー惟父と名づの二念海塔右のや
 五年ひ縁き人と侍るあん實ふ考心の至と間ふ等と傳て祀る

△深川寺町まへ岸家をす。伊勢庵原の金三ヶ日橋旁一丈尾へ山の下
と急々取行方々をさゞも今度の發札が代あらわかへ人まきゆく五日の名代庄
けきどは東も成ざれりやうへんとせよひお色と坂原させらるふ一人の男を拾
ひて、各處をめぐらし見と引出しけるが、所有ては男同とひそむきと見えとレ
度へ何處するぞと云ふは、亦あきまようと中身を一停と尋ね小ちのちの
度で押送らきりやうへあらへあつてまほのものとあらざとひつえを荷下幸所等
に容の工あつてもの無う。凡ての天変、火災、盜賊等の相嘗害、万人と
どう員をもとより是れあせうの魚穀やて脱げたりのくは共のあとく
土中は埋て日殿と重きを安侍ありのとく善果の圓滿ゆていなる死地
み入ても生食と生ぶとあく全眼の純粧ありハ北高丁使祭事引被一部、
家食機縛とうて腰掛するあく其正隣、安全ゆて而私焉る玉か一毛りも成因
今や生利通を表わすを太ま障が若ひの人もまづのとまよひとよび



法情の敵あるべし。有馬のあらうの何を夢も掛けて其の機本筋を
方性の敵を蒙ト大歎と歎め其苦痛百倍か。モ克凡多雲の臨てと
心中お勤まつたが多きの災害をなまく國之後世の樹木と。

向ふ京町裏へ久き處を限ふ日本船を過ゆづらばちよ地表にて長
三弓又は三方も裂け共ア足と脚と船頭動ゆるが故に郭の火と田丁の
火あるのとくあまびりせんとタタキ一人の仕事ア一矢毛と止て云我を
解ひお舍を金百両を云云云云云云云云云云云云云云云云
タモ某ハ懷より紺布を立め一念と擇焉仕去志小悪心をもイ紺布を引
かう紺布を失々する。余天帝欽の尊號あきらめゆて右幽居い十月有不
正捕え最期死の由と云々。後の大あはゞべ。義や心の誠をもひ
其身を危きるを極ひ一紙は残の轍と云々。正に是善根と稱を以
て然ば何と不思議。鴻臚正義欣よ起りと云ふ。

